



青木の風

生きる 創る そして輝く

学校だより 9月号

令和 4年 8月 29日
横浜市立青木小学校

多様性を尊重した教育を目指して

教務主任 松本 進

「子どもたちは夏休みをどのように過ごしていたか。」と、思いを馳せていました。夏休みだからこそできる学びをしてほしいと願っていたところです。しかし、コロナ禍での難しさもあったかもしれません。また、久しぶりの登校に対する不安を感じている子どもたちもいると思います。子どもたちの成長や変化、内面に抱えているかもしれない不安に気付けるよう、努めていきたいと思っています。

夏休みに私たち教職員は、素養や専門性の向上を目指して、「人権教育・特別支援教育研修」「不審者対応研修」「(夏休み明けに全国的に増えるといわれている)自殺防止研修」などをしました。横浜市立学校全体で教育のあり方を学ぶ研究会もありました。それぞれの研修で学んだことは、今後の教育活動などに生かしていきたいと思っています。学んだ中で、特に私が強く印象に残ったことがありました。それは、多様性を尊重していくことです。

まず、「人権教育・特別支援教育研修」では、「自分の考えや感じ方のクセに気が付くことが必要」ということを学びました。「これは・・・だ」「あれは～であるべき」という自分の固定観念があるのではないかという気付きがありました。「一人ひとりの人権を大切にすること」ということは、頭では分かっています。しかし、自分の固定観念と切り離されています。人権感覚を磨き続けていきたいという気持ちを強くもちました。

そして、横浜市立学校全体で教育のあり方を学ぶ研究会では、国の動向に沿った今後の教育政策の方向性について示されました。今日の社会的な構造の変化は、「みんなと同じことができることが大事」から「他者との差異や違いに意味や価値がある」へという大きな変革をもたらしていて、日本社会全体が岐路であるという指摘がありました。「他者との差異や違いに意味や価値がある」とは、青木小学校が「やさしい心で自分らしく生きる力」の育成を目指す中で、生活科・総合的な学習の時間の研究、たてわり活動、人権教育、道徳教育などの取組に加え、日々の教育活動で大事にしてきたことです。ルールを守るなど、「同じ」を求めることものではないかと省みながら、「他者との差異や違いに意味や価値がある」ことを大切にしていけることが前提にあると気付かされました。

ルールを守るなどの規範意識もとても大切です。これは「同じ」を求めるというより、多様性のある他者を尊重するからこそ規範意識も育てていきたいという考えになりました。夏休みの学びを通して、自分の意識を見直して、多様性を尊重した教育を目指していきたいという思いを強くもちました。